

三木家のホストファミリー

KITA主催 ホームビジット



世界中の研修員に日本の家庭を紹介
コースリーダー 三木 義男

2018年11月2日

(公財) 北九州国際技術協力協会



「KITA主催 ホームビジットの思い出」



私が、KITAホームビジットを開始したのは、平成3（1991）年です。当時、TOTO勤務の傍らでJICA研修の「生産管理」講師をしていた関係でKITAとの縁ができホームビジット（HV）制度を知りました。それで、海外の方に少しでも日本の思い出を作って頂き、一方、私としては海外の方と直接触れ合う機会が出来ることから始めた次第です。

現在までに我が家へ訪問した研修員は、下表の様に117名（36か国）となっています。この表は、研修員数の多い地域順に並べていますが、アジア(49名)と中南米(42名)が多い結果となっています。また、国別では、最も多い訪問者はメキシコ(14名)で次にタイ(12名)となっています。メキシコが最も多い理由は、KITA研修で来日したモンテレイ工科大学エクトル教授から夏季大学祭の講演を依頼されて私が二回メキシコを訪問した事からメキシコ研修員が増えました。

地域区分	研修員数	国数
アジア	49	9
中南米	42	9
ヨーロッパ	11	8
アフリカ	9	6
中近東	6	4
[合計]	117名	36か国



1. 着物の着付け

さて、我が家のHVの特徴は、妻が着物の着付けの免許を持っていますので、女性研修員が多いことです。着付けの写真を研修員がお互いに撮り合うために極力複数の女性研修員を招きました。また、私の住んでいる京築地域は、歴史的建築物も多く、自然も豊であり四季に応じた風景を研修員に喜んで頂きました。



リザさん(インドネシア研修員)の着付け風景 H11年(1999年)



ペロニカさん(アルゼンチン研修員)
アンアさん(ロシア研修員)
H22年(2010年)



マリアさん(コロンビア研修員)、フェリペさん(チリ研修員)、アグスティンさん(アルゼンチン研修員) H24年(2012年)



2. 研修員の思い出

ここで、研修員との思い出についてご紹介します。このレポートを書くために、久しぶりにHVアルバムを見返しました。当時のことを鮮明に思い出しますが、3名の研修員について紹介します

1) アドレアさん(メキシコ研修員) 1991年

まず、平成3年(1991年)に初めてHVに招待したメキシコ研修員のアドレアナさんです。当時は若戸大橋に近い北九州市戸畑区に住んでいました。アドレアさんと幼いころの娘たち(10歳と11歳)と一緒に記念撮影しました。その娘たちがアドレアナさんに習字を教えている光景が目には浮かびます。もう、その娘たちも30代後半になっています。

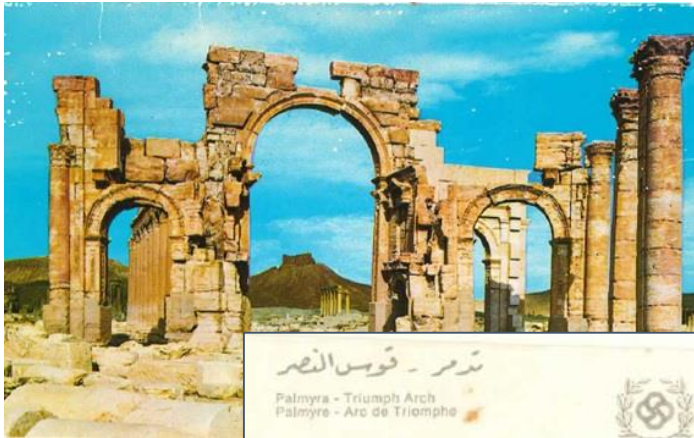


アドレアさん(メキシコ研修員)と
記念撮影の愛娘 H11年(1999年)

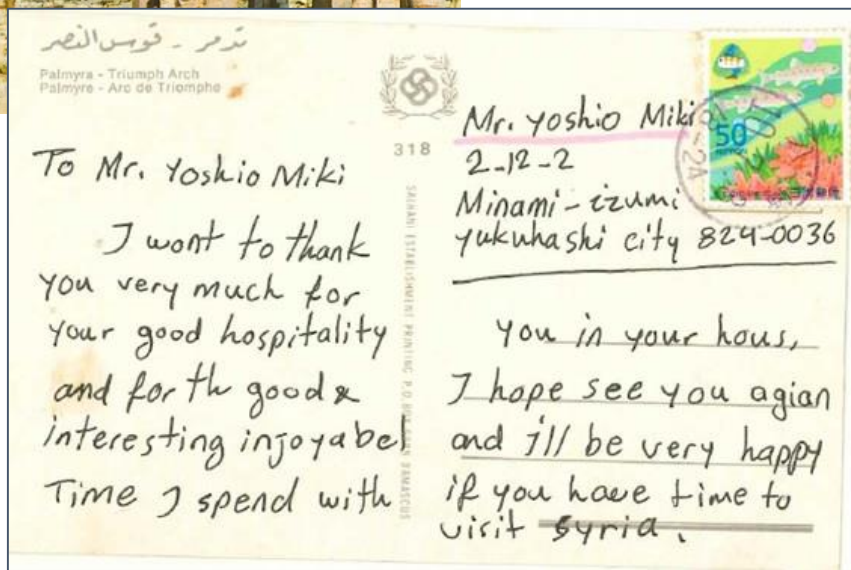


2) イヒサンさん(シリア研修員) 1998年

次に、平成10年(1998年)のシリア大統領府科学研究センターのイヒサンさんです。写真では、妻の白い和服姿の隣に彼が微笑んでいます。また、彼から届いたお礼の絵葉書を見るたびにシリア内線で無事に過ごしているのか。大変心配しています。



イヒサンさんからの
絵葉書 H10年(1998年)



イヒサンさん(シリア研修員)と
記念撮影の妻 H10年(1998年)



3) サヌさん、サビルさん(ネパール研修員) 2005年

そして、平成17年(2005年)には、ネパール研修員のサヌさんとサビルさんを招待しました。写真では、着物を着て、にこやかな絵顔で写っています。ですが、'15年4月25日発生のネパール大地震の影響がないかどうか心配です。



サヌさん、サビルさん(ネパール研修員)と
記念撮影 H17年(2005年)

最後に、私のホームビジットの感想を述べます。

現在は、まさにグローバル社会です。世界があって、その中に日本が存在しているのです。私は、我が家において世界の人々をHVを通じて拙速してきました。世界の人々と直接、会話することでその国の状況を知ることが出来ましたし、それを引き金にして夫々の国に興味を持つことが出来ました。その結果、グローバルな視点で物事を考え、判断・行動することで、地域社会への貢献活動が出来る起爆剤になっております。

以上